

# 第8学年A組 国語科学習指導案

指導者 前嶋 洋子

## 1 単元 『走れメロス』の謎を探ろう

教材名 「走れメロス (東京書籍)」

### 2 目標

- 人物や情景の描写について、自ら課題意識をもち、意欲的に作品を読もうとする。(国語の関心・意欲・態度)
- 登場人物の言動や場面の展開、表現の仕方について話し合うことで、学習課題を発見・設定したり、解決したりする。(話すこと・聞くこと)
- 学習課題を解決するために、人物像設定や場面展開、表現の仕方に着目して作品を読み深める。(読むこと)
- 人物像につながる喜怒哀楽を表す言葉などに注意して、語感を磨く。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

### 3 児童・生徒の実態 (39名)

(平成28年10月28日実施 39名)

実態調査では、28名の生徒が内容や登場人物の言動について自分の考えをもつことができている。しかし、肯定的な考えがほとんどで、作者の意図や表現の仕方、作品に対する疑問や問題点を挙げた生徒は数名であった。つまり、作品に対して受け身である生徒が多いと言える。意欲的に読むためには、まず、生徒自身の作品に対する問題意識を喚起させる学習活動を展開する必要があることがわかった。

	調査内容 (本時の学習の基礎となる力)	正答者数
1	文学的文章を読んで、内容や登場人物の言動について感想をもつことができる。	28名
2	文学的文章を読んで、作者の意図や表現の仕方について感想をもつことができる。	4名
3	文学的文章を読んで、疑問や問題点を含んだ感想をもつことができる。	5名

### 4 指導観

8年生の「読むこと」では、人物や情景の効果的な描写に着目して作品を読み深めたり、場面の展開や表現の仕方について自分の考えをまとめたりすることが求められている。「走れメロス」は、正義や勇気、友情、愛などがテーマとして語られることが多い。具体的な表現を吟味する過程がないと、道徳的・観念的なテーマを掲げただけの捉え方で終わってしまい、読む意欲が継続しないおそれがある。まずは、生徒自身が「もっと読みたい」「解決したい」と思える課題を設定する能力(課題設定能力)を身に付けることが大切である。そこで、本単元では、「ここが納得いかない」「なぜ、このように書かれているのか」「登場人物は、なぜこんなことをしたのか」といった、具体的な表現から湧き上がってくる生徒自身の「問い」を「走れメロス」の『謎』とし、その『謎』を探る学習活動とした。

### 5 研究テーマに迫るために

本学園の国語科の8～9年の学びの系統表では、「目的や意図に応じ、文章の内容や表現の仕方に注意して読む」ことを目標としている。これをふまえ、本単元では、自ら課題を発見し、追究し、解決していく学習過程を仕組んでいきたい。まずは、ブレインストーミングをよって「走れメロス」の疑問や問題点を洗い出し、グループで話し合いながら共通の「問い」を探ることで、課題設定能力を育成したい。さらに、課題を解決するために相互交流をすることで、より高次の思考に到達することを目指したい。

● <b>焦点化</b>	□ <b>視覚化</b>	◆ <b>共有化</b>
・『謎の観点』を示し、登場人物の言動や場面の展開、表現の仕方に着目させる。	・デジタル教科書、実物投影機を活用することで、思考の可視化を図る。	・考えをグループ内、全体で発表し合い、それぞれの考えを共有する。

### 6 指導計画 (7時間)

第1次 全文を通読し、大まかな内容を把握する。……………2時間

第2次 学習課題を設定し、『走れメロス』の謎を探る。……………5時間

	時	主な活動内容	観点別評価						評価の規準	評価方法
			関	話聞	読む	書く	伝統			
第2次	1	・班で疑問や問題点を出し合い、探りたい謎について話し合い、課題を設定する。(本時)		○	◎				話し合いによって課題を設定している。	観察 発表
	2	・人物描写や場面展開、表現の仕方、原作「人質」との違いなどに着目して考える。		○	◎				根拠を明確にして人物像を捉えている。	観察 ワークシート
	3	・それぞれの班の謎について意見交流をする。	○	○					他の意見を取り入れている。	観察
	4	・個々で謎解きレポートをまとめる。				○	○		自分の考えをまとめている。	レポート
	5	・謎解きレポートを読み合い、学習を振り返る。	○		○				自分の考えを広げている。	レポート

7 本時の学習

(1) 目標

「走れメロス」の疑問、問題点について話し合い、自分たちの学習課題を設定することができる。

(2) 準備・資料

ブレインストーミング用ワークシート、付箋、実物投影機、デジタル教科書、電子黒板

(3) 展開

(●: 焦点化 □: 視覚化 ◇: 共有化 ※: 人権教育の視点 ◎: 評価)

展開	児童・生徒の主な活動	予想される つまずき	UDの視点及び 指導上の留意点
課題把握 3	1 学習課題を把握する。 「走れメロス」の謎を見つけよう。		□デジタル教科書を活用し、前時までの学習を振り返らせ、人物像設定や場面展開を確認する。
課題認識 10	2 【謎の観点】をもとに、疑問や問題点を考え、付箋に書く。 【謎の観点】 ・人物の言動 ・場面や状況の設定 ・文章や言葉の使い方	・疑問、問題点として登場人物の言動や場面の展開、表現の仕方に着目すること。	●【謎の観点】を示し、文章を読めば明らかに分かることや、辞書で知られば分かる語句の意味などを謎としないようにする。
自力解決 10	3 班で話し合いながら、それぞれが書いた付箋をまとめる。 (1) 一人ずつ自分が書いた謎について、謎だと思った理由を説明しながら、ブレインストーミング用ワークシートに付箋を貼っていく。 (2) 【謎の観点】ごとに付箋をまとめる。 (3) さらに、共通している謎ごとに付箋をまとめ、○で囲む。 (4) それぞれのまとめりごとに、謎の見出しを書く。	・個々の考えに違いがあることで、意見交流が豊かになり、自分の考えが広がること。	・「ここが納得いかない」「なぜ、このように書かれているのか」「登場人物は、なぜこんなことをしたのか」など助言し、思考を支援する。
比較検討 10	4 完成したブレインストーミング用ワークシートをもとに、班で検討し合い、提案したいと思う謎を決定する。 ・なぜ、セリヌンティウスを人質にしたのか。 ・メロスは本当に勇者なのか。 ・王はなぜメロスの仲間になったのか。 ・山賊は王の差し金か。 ・最後に一人の少女が出てくるのはなぜか。 など		◇自分の考えをグループ内で発表し、一人一人の考えを共有する。 ※他の人の考えをよく聞いている。
全体検討 15	5 班ごとに提案したい謎について発表し、全体で検討する。 (1) 謎だと思った理由を言う。 (2) 別の班の謎に対する意見や考えがあったら発表する。		・「もっと読みたい」「解決したい」と思えるか、解決の見通しが持てるかを考慮するよう助言し、思考を支援する。
まとめ 2	6 本時の学習を振り返る。 (1) 『謎解きレポート』への見通しをもつ。 (2) 自分が探っていききたい謎を決める。(他の班が提案した謎を選んでもよい。)		◎班で話し合い、考えをまとめている。(観察) ◇グループで検討したことを発表し合い、全体で考えを共有する。 □ワークシートを実物投影機で示し、思考を可視化する。 ◎自ら課題意識をもち、意欲的に作品を読もうとする。(発表)

8 板書計画

